



# FIGU - Landesgruppe JAPAN

## フィグ・ランデスグルッペ・ヤープン

Internet: <http://www.jp.figu.org>

E-Mail: [info@jp.figu.org](mailto:info@jp.figu.org)

FLJ通信

第5号その2

発行：2015年8月1日

### FIGU特別公報86号からの抜粋（606回公式コンタクトからの抜粋）

FIGU-Sonder-Bulletin Nr.86<sub>p3-p11</sub>

[Auszüge aus dem offiziellen 606.Kontaktgespräch vom 3.Januar 2015]

606回公式コンタクトからの抜粋  
2015年1月3日

**ビリー:**さて、預言では遠い将来、女性が世界を支配してより人間的に行動し、統治し、そして人間を過去数千年に亘り男達の間で行われていたのとは異なる扱いをされると言われている。だがそれは実際にはまだまだ将来の夢だ。というのもそれはそんなに早期のことではなく、従って、女性が権力を握り、言われるような人間に相応しい方法で地球人の運命を導くようになるまでには、なお数百年が世界の上を通過するだろうから。つまりそう成るまでは、全てが数千年来、続いてきたとおりになるだろう。それはすなわち、圧制され抑圧されてきた人間が解放されると、今度はその全ての圧制と抑圧を彼らの同胞に行使するということだ。これは現代でも家庭や会社や大企業、そしてまた政府において、女性がいわゆる解放の結果としていよいよ発言権を持ち、主導権と権力を手にした場合に見られる。これらの女性の一部、まさに(昔から男達がそうであったように)今や指導的な地位と権力を行使しようとする女性は、女性解放運動によって手に入れた強みを利用して反撃し、自分達に加えられた圧制や不自由や抑圧を思う存分發揮

するのだ。その例は、今日女性が発言権を持ち、権力を握る場面に至るところにある。それはしばしばまるで数千年間続いた男達による抑圧に対して仕返ししようとしているのではないかと思える。そのために今度は彼女達が不自由と抑圧と冷酷な要求を課し、法律や規則や命令を布告することによって報復を求めて、それによって国民は苦しめられ無防備な状態で窮地に追いやられるのだ。しかしこれは誤解されてはならない。というのもこれについて私は実際にはこのように自分の変節を存分に發揮する種類の女性達のことだけを語っているのであり、それゆえ男女の同権等に関する変化に正しく適応し、相応に振る舞う女性のことを言っているのでは無い。まさにこれについて、私は次のように考えている。本来、傲慢な態度や抑圧から解放された大多数の女性は理性的に振る舞い、男と女が対等で同権であることを適切な枠内で生きている。つまり私は、今、言ったように解放運動の結果、男の上位に立つ権利意識の強い女性について語っているのでは無い。男と女を対等に置き、同権にすることは、実際には両性が全ての役割と権利において同等に振る舞い、従って一方の性が他方の性の上位に立つことも無いということに基

づいている。女性と男性の間には等しい義務と等しい権利が存在するのでなければならず、これは労働に対する等しい報酬にも当てはまる。男と女を対等に置き、同権にすることが本当に機能することは、我々がFIGUにおいて毎日経験していることである。なぜならこの原理は我々の姿勢に<sup>かな</sup>適っており、我々もそのように振る舞っているからである。だから我々のものでは女と男の相互性があり、一方の側が他方の側の上に立つことは無く、従って対等であり、同権であることが生かされ、平和が支配しているのだ。

**プター:**それは実に注目に値する事実だ。私が地球人について家庭、友人や知人との関係、職場、大小の企業および役所や政治などを観察していて、それとは反対の不愉快なことを見るならば、君達の協会において女性と男性の間で対等と同権が完全に育まれているのは非常にまれなことだ。

**ビリー:**それはミッションにも相当する。

**プター:**もちろんだ。

**ビリー:**しかし私が、何かしらの方法で主導権と権力を握るための手

段を見いだす支配欲に駆られた女について言わないでいたことは、彼女達は同じ立場の男よりはるかに卑劣で陰険で不誠実で仮借ない〔容赦ない〕ということだ。

そして彼女達がさらに変節すると、男達の場合と全く同様に容赦なく目的のためには手段を選ばない。これは、女性はあらゆる点で他人に対し男よりも思いやりがあり、人間的で寛容であるというのとは完全に対立する。だが私の見るところ、支配欲と権力欲のイメージに属する女は、ビジネス界でも、家庭、友人や知人との関係においても冷酷で仮借〔容赦ない〕なく成功に取り憑かれており、この点で多くの男達に勝っている。

このような態度は、抑圧から解放され、そして自分が他人を抑圧し支配するとき、多くの者があからさまに示す。だから彼女達は男の世界によって被った抑圧を他の人間に、つまり別の女と男と子供達に加えるが、その結果残念なことにこの種の女は一般に女の世界からも男の世界からも等しく変節者として罵られることになる。

もちろん人間を抑圧という誤った変節した行為は、それをするのが女であろうと男であろうと、当然のことながら完全に誤っている。というのも人間を抑圧する権利など決して存在しないからだ。なぜなら、そのようなことは絶対権力と隷属化とそして奴隷化を意味するからである。さらに言わねばならないのは、私の説明は決して男の方が女よりましだという風に解釈されてはならないということである。というのは束縛や抑圧から自由になったら、男も女がするのと同じ行動と行為の虜になるからだ。さらに非常に多くの男達も主導権と権力の座を獲得すると、い

ろいろなやり方で変節する。

人間が一般的に、こうした全てのことをより良い方向に変えるのは、つまり男も女も創造・自然の法則と勧告に向かい、これらを修得および遵守して、謙虚さと人間性を学び追体験する場合のみである。これが為された場合のみ、全ては善くなり愛に満ち、平和と調和が取れ地球の人間は本当に人間的に成ることが出来るのだ。

**プター:**君の言葉が地球人の耳に聞こえても、彼らがそれに従ってって行動するかどうかは疑わしい。

**ビリー:**それは私にもわかっている。というのも非常に多くの地球人はたいてい自分自身のことしか、それもほんの目先しか考えないからだ。それゆえ彼らの思考と感情は通例は利己的な特徴を持っており、このように意識の中をさ迷うだけで、真の成果も効用ももたらさない。彼らは際限の無い不平に生きるか、あるいは専ら権力の行使、利益と利潤と享樂の追求に生きて、同胞や生活の苦勞のことを愚痴る。彼らは人生の善いところと美しさを見ず、愛と平和、自由と調和に身を捧げることが理解しない。なぜなら彼らはそうしたことにおよそ興味が無く、自分の人生の馬鹿騒ぎにしか興味が無いからである。だから彼らは人生の価値を認識し、把握し、追体験することも出来ない。なぜなら彼らはあらゆる点で非現実的な人生を追い求めているので、現実的な人生およびその真実と価値に対する思考を見いだすことが出来ないからだ。

彼らは人生において完全に道をさ迷っており、無益な事物に時間と全人生を浪費している。いつか成功して「今、自分は遂に人生と

その意味を見いだした」と言えることもない。

**プター:**遺憾ながら本当にそのとおりだ。というのも大多数の地球人は彼らの生き方と行動および管理において非現実的に振る舞い、人生に途方も無い損害をもたらすようなことをするからだ。それはISについても、何らかの形で人種差別主義的で、外国人や宗教に敵対的に振る舞う全ての者達にも言えることである。

**ビリー:**それは争う余地の無い事実であり、繰り返し変節をもたらしている。原理主義的な”イスラム主義国家”を信奉し、それどころかそのために人生を捧げ、さらには殺人や大量殺戮、拷問や強姦をしているあの病的に愚かで馬鹿な人間達のことを考えると、おののきが走るだろう。同様に、たとえば悟性と理性に乏しい漫画家や戯画家や風刺画家、そしてまたフランスの風刺新聞“シャルリー・エブド”がしているように、イスラム教とイスラム教徒とその預言者ムハンマドを台無しにし、それらを誹謗、幼稚な漫画や戯画、中傷記事などによってたち悪く侮辱する全ての連中も愚かである。

この場合、漫画家や戯画家や風刺画家の全行為は、「全てを勝手に行うことを要求する権利」とは無縁である。従って彼らもまたモラルと礼儀に、個人や団体や宗教や真の預言者または、信者の名誉と尊厳に違反してはならないのだ。

漫画や戯画や風刺画は、誇張および極端に嘲笑的な批判、もしくは揶揄を特徴とする、いわゆる芸術ジャンルに属しているが、人間の深い個人的領域や、何らかの信仰傾向の信者、またはその預言者

などの高い道徳的価値、礼儀、名誉と尊厳をたち悪く差別的に傷つけることとは無縁である。クルト・トゥホルスキーが1919年にその伝説的な言葉「風刺に許されること？ 全てだ」を書いたとき、まさしくこの“全て”がある日、モラルもしくは道徳的に高い価値、礼儀、人間の名誉と尊厳を、そしてまた人間の信仰と根本的な信仰価値を深く傷つけることになるろうとは思ひもよらなかつたはずだ。

彼がそのようなことを考えていなかったことは全く明らかであり、この“全て”から遂には教派とテロに刻印された血なまぐさい残忍な策謀が生じ、多くの人間の命が失われるということも予想しなかつた。それにもかかわらず風刺が、特に信仰や信仰価値も必要とする人間の深い個人的領域において傷つけるように作用して、そこから殺人や撲殺や破壊が生じるならば、それはもはや風刺とは関係なく、揶揄などでさえ無く、悪質なテロと同類の侮辱であり傷害である。

それはまた理性的的的を射た批判とも、誠実な意見の自由と報道の自由とも無縁である。宗教や宗教的信仰や宗教の創始者も漫画や戯画や風刺画によって批判的にまたは冗談めかして“笑い者”にされてよいのは事実であり、正しく、また許されなければならない。

しかしこの場合、一方で全ては本当の真実に、真実だけに合致していなければならない。他方で人間もしくは信者の誠実な志操は守られ続けなければならない、悪質な侮辱、嘘、誹謗中傷、道徳的な傷害に関する全ては行われてはならない。礼儀とモラル、名誉と尊厳の枠は守られ続けなければならない、傷つけられてはならない。

いわゆる漫画、批判、戯画また

は風刺が卑怯な手口で行われ、それによって悪質な嘘と誹謗が世間に広められるなら、それはあってはならないし、またそのような策謀は当のいわゆる漫画家や批評家や戯画家や風刺画家の安っぽく下賤な性格と、不誠実、無責任、荒唐を証言するものだ。そのようなことが起きると、場合によっては外国人憎悪や人種憎悪も現れ、同様にまた人間蔑視およびモラルと礼儀と名誉と尊厳のあらゆる高い価値の軽視が生じる。それによってそのようなことをする本人達は下賤で節操の無い振る舞いを証明し、そのため彼らはその愚かさ馬鹿さ加減において自分自身を晒し者にしているのだが、しかし彼らは自分の無理解と無分別のためそれを悟らないのだ。彼らは、自分達の下賤で汚い策謀によって敵意を生み出し、場合によっては自分の命さえ危ぶまれることにも気づいていない。そしてまた彼らがその邪悪で不当な攻撃や嘘と中傷に対して、歓呼して自分達を擁護する信奉者を見いだしたとしても、確かなのは歓声を上げるこれらの連中もその性格と振る舞いに方に関して、信奉者を扇動することに成功した幼稚ななぐり書きや言葉や戯画や風刺的な発言の原作者と同じ程度に病的だということである。

今日、悪質で汚らわしく中傷的な漫画や批判、戯画や風刺がイスラム教とイスラム教徒およびその預言者ムハンマドに関して行っていることは常軌を逸し誤っている。宗教とその創始者および預言者について適切で正しいやり方で率直、誠実に語られることは無く、それによってまた実際の事実が明らかにされることも無く、発言や言葉や戯画による嘘と罵詈雑言と誹謗

中傷によってたち悪くわい曲されて罵られる。だがそれが害悪の全てではない。というのはこれら全てによって、それぞれの宗教に属しその創始者と預言者を敬う人々の信仰と尊厳も踏みにじられるからである。まさにこれが今日、極右によって、ある外国人や宗教や人種の憎悪者によって、そして無責任ないわゆる漫画家や戯画家や風刺画家によって為されていることであり、彼らはことさらにイスラム教を、従ってまたイスラム教徒を攻撃し誹謗し台無しにする。だがそれはもはや漫画や冗談や風刺とは関係ない。たとえ漫画家や風刺画家が変節した“イスラム主義”を取り上げて彼らを弾劾しようとしているのだとしても、その狂信的で過激化した盲信者が世界中でテロに熱中して殺人と破壊を働いているとしてもだ。そしてこれらの盲信的で教派狂信的で過激化した連中が、未熟な漫画家や戯画家や風刺画家に復讐しようとして、まさしく血に飢えた興奮状態で思慮なく殺害し、考えられる限り全ての財物を破壊するのだ。漫画家や戯画家や風刺画家は未熟なので、自分達が宗教や信者やその預言者を、ここではまさにイスラム教とイスラム教徒、さらにムハンマドを侮辱したり攻撃したりすることによって大きな危険を呼び起こすのだということを認識していない。しかし、だからと言って戯画や風刺による誹謗に憎悪と復讐と報復をもって反応するのは、悟性と理性の点で誠実なイスラム教徒では無く、変節して狂信的で過激で人間性が退化したイスラム主義者であり、殺人、自爆攻撃、大虐殺、大量殺人などをもって反応する。こうしてこれらの変節した連中は誠実なイスラム教徒の評

判を悪くし、イスラム教徒とイスラム一般に対する憎悪を助長している。しかしながら変節して人間的に墮落したイスラム主義者はイスラム教とは関係なく、誠実な信心深いイスラム教徒とも関係ない。

これらのイスラム教徒は根本的に暴力と不和から遠ざかっており、全ての信仰上の狂信主義や過激主義も、従ってまた如何なるテロも拒否する。これらの信心深いイスラム教徒は、愛と平和、自由と調和を支持し、またそのように生きようとする人々である。彼らは誠実な人間であり、その点では仏教徒であろうと、ユダヤ教徒、キリスト教徒、ヒンズー教徒であろうと、あるいはアジアの伝統的な宗教や新興宗教の信者であろうと、全ての信仰傾向の誠実な人間と変わらない。しかしこの事は特にキリスト教徒から理解されず、そのためキリスト教徒は不当にもイスラム教とイスラム教徒を有罪と見なし、彼らを変節した狂信的で過激なイスラム主義者と関連付ける。

イスラム主義者達は偽善にも宗教と信仰と予言者の名の下に殺人行為や破壊行為を為し、無数の人間に筆舌に尽くしがたい苦しみももたらしている。言うておくべきことは、漫画や戯画や風刺は人間または何らかの宗教の信者に対して、この場合はイスラム教とイスラム教徒とその予言者に関して何らかの方法で侮辱し台無しにする作用を持っており、もはや本当の漫画や戯画や風刺とは無縁のものだということである。すなわち漫画や戯画や風刺は正しく適切で非の打ちどころのない枠の中で表現されるならば、根本的に冗談として解釈されることが出来、決して侮辱し中傷し台無しにするように働かず、従って宗教の信者によっ

て攻撃的と受け取られることも無い。他方、戯画や漫画および、風刺の装丁・外見は絵や文字、言葉そして、イラストにおいて欺まん、盗み、戦争、嘘、略奪、不和、不正、テロ、犯罪、中傷、そしてそのようなもの等に関して全て大いに積極的に、酷く、激しく弾劾することが許されるし出来る。なぜならこれは全く別のケースだからである。というのもこの場合はどんなに意地の悪い漫画や戯画や風刺画も、害悪を告発するのに厳しく辛辣過ぎることは無いからである。だがこの場合も重要なのは、本当の真実だけが主張されてよいこと、そして礼儀とモラル、名誉と尊厳はどのようにしても守られねばならないということである。人間や宗教などの個人的側面に関しては、漫画や戯画や風刺画は常に、本当の真実に合致しなければならぬと共に、ユーモアはあっても侮辱などの作用を及ぼさないように保つべきである。だから良質の漫画や戯画や風刺画に対しては、特にまさしく信者が尊敬と尊厳を寄せている信仰と信仰に関する事柄について、何らかの形で侮辱し、誹謗し、台無しにし、でっち上げ、中傷するのでなければ決して異議を唱えるべきでは無い。しかし今日の多くの戯画家や漫画家や風刺画家は、外国人憎悪者や人種憎悪者と同様、まさにこれに違反している。こうして彼らは良心の無い過激派か扇動者以外の何ものでもなく、彼らのやり方でテロも行い、そうすることによって危険にも人々の敵意を煽り立てているが、それは非道で殺人的な帰結を招きかねない。彼らは自分達の気に入らない全てのものに対する狂信的で過激化した敵意を持って毒矢を放ち、彼らの敵が激高す

るように煽る。するとこれらの敵は復讐と報復を始める。というのもそれらは信仰の狂気という点で原理主義的教派の狂信主義と過激主義に陥っているからである。それがまさに変節して人間的に墮落した、真のイスラム教とは一切共通点の無いイスラム主義者である。

イスラム教やイスラム教徒やその予言者ムハンマドに対して憎悪をもたらず怪しげな漫画や戯画や風刺画を作っている者達は、自分達は罰せられること無く何でも許されていると考えている。これらの未熟で理性の無い常軌を逸した漫画家や戯画家や風刺画家および外国人憎悪者や人種憎悪者は、これに関する無責任から自分達がテロ行為を為し、それによって退廃的なイスラム主義者の復讐欲と荒廃を助長しているのだというところまで考えが及ばない。彼らは厚かましくも恥知らずな自由を主張し、信者とその予言者に嫌がらせをし、そうすることによって実際に自分で危険なテロを行っているのだ。しかも彼らはそれを思慮なく軽率にも人間の深い私的領域に関してもやっているが、それは彼らがそういうことに対しても敬意を抱いていないからである。普通の市民がそのようなことをして、教派その他の詐欺師、泥棒、嘘つき、中傷者などの犯罪的な策謀に関して、自由で率直に意見や真実を言ったり書いたりすると処罰される。というのもそうすると私の身に何度も起きたように裁判所に呼び出されるからだ。

しかしジャーナリストが新聞やラジオやテレビで、そして怪しげで無責任な漫画家や戯画家や風刺画家が罵りと絵やイラストや発言や言葉のテロで、宗教と信者とその予言者を苦しめたり侮辱したり

誹謗したりしても妨害されることは無い。なぜなら大多数の国民と統治者がそれに対して歓声を上げるからだ。そして国民と統治者等がそうするのは、彼らが理性を備えておらず、現実には与えられている本当の事実を認識できないからである。従って彼らはオオカミが遠吠えするとき一緒に吠えるに過ぎない。

残念ながら大多数の地球人の愚かさの種は、若干数の無責任者の大衆に対する影響力の及ぶところまで蒔かれている。これらの無責任者は誤びゅうと不正、不和と暴力などで大衆の心を奪うことが出来る。従って、大衆は無責任な首謀者と同じ声で吠え、同じように振る舞うのだ。そのとおりであることは、昔から人類の歴史が証明している。たとえば先の世界大戦のナチスや、今日存在するネオナチ、すなわちドイツの“ペギーダ”、シリアとイラクのIS、もしくは“イスラム国”および世界中の犯罪組織がそうである。これら全ての前には遠吠えする無責任な人間蔑視の手法があり、彼らは目的のためには手段も選ばず、愚か者や馬鹿者や同志を自分の周りに集めて、殺人やテロや抑圧や考えられる限りの悲惨と害悪を広めているのだ。

その際にこれらの叫ぶ者達、まさにオオカミと一緒に遠吠えする者達は（外国人憎悪者や人種憎悪者であれ、無責任な漫画家や戯画家や風刺画家であれ）その愚かさや馬鹿さ加減の故に、自分達がやっているのは不和と憎悪の種を撒き、既にナチ時代に起こったのと同じことをしていることを自覚しない。

ここで問題になるのは良質で健全でユーモアのある漫画や戯画や風刺画ではなく、中傷と実に多様な絵や言葉やイラストや発言のテ

ロである。それはまさに宗教と信者、およびその創始者と預言者が罵られ、絵や文字や言葉やイラストで誹謗される場合である。このような忌まわしいやり方で全てはジャーナリストや漫画や戯画や風刺のテロによる扇動の上に築かれ、それは狂信的で過激化した連中の間で復讐と報復を求めて叫んでいる。その際、特に念頭に置かれているのは残忍なテロリストのイスラム主義者であるが、誠実な信心深いイスラム教徒も彼らを拒んでいる、つまり殺人集団から距離を置いている。だからイスラム主義者のテロの背後にはイスラム教ではなく、血がしたたるイスラム主義が潜んでいるのだ。その事は誠実なイスラム教信者が真のイスラム教徒であるのに対し、イスラム主義者は不誠実で原理主義的で狂信的で過激化した殺人の狂気に憑かれたテロリストであり、本当のイスラム教徒ではないという違いも明らかにする。

ここで興味深いのは、イスラム教や預言者ムハンマドや信心深いイスラム教徒に対する憎悪に刻印された漫画や戯画や風刺画は、専らいわゆるキリスト教徒によって行われているのに対し、イスラム教徒の間では同じようにキリスト教徒世界やその信者や“イエス・キリスト”に対する策略は現れないと言っている。しかし“キリスト教徒”を自称し、この点においてイスラム教やその信者やムハンマドや別の宗教の信者に反対する者がそれをあえて行うことは、厚かましくも実にとんでもないことである。それは無責任な人間によってやり遂げられ、それによって復讐と報復の衝動が呼び起こされて助長され、そこから再び殺人や撲殺や破壊が生まれ、自爆攻撃者

を登場させてテロと大量殺人が行われることなど、彼らにとっては実にどうでもよいことなのだ。しかし、それはまた旧来のキリスト教のイスラム教に対する宗教憎悪を示し、それによってまた無数のキリスト教徒にとって都合が悪い全てのものに対して、惨めな心根を見せる。彼らはまさにキリスト教会が昔からそうであったように過激で無責任である。これについては例として十字軍と宗教裁判を思い出しさえすればいい。今日の過った漫画家や戯画家や風刺画家は、自分達は何をやってもよく、他人を侮辱しても罰せられず、他人の名誉と尊厳を傷つけても責任を問われることは無いと信じている。実際、彼らは今日ずっとしくなっており、とりわけイスラム教とイスラム教徒について、最悪のやり方で宗教信者の信仰価値を傷つけながら当局から罰せられることは無い。そして彼らは全てを意見と報道の自由と呼んでいるが、何もかもイスラム教とイスラム教徒に対する悪質な扇動およびそれらの迫害以外の何ものでもなく、ユダヤ人を迫害するための古くから知られているナチの手法にも等しく、ネオナチやその他の過激派、外国人憎悪者、人種憎悪者、宗教憎悪者が登場している。過った漫画家や劇画家や風刺画家の話であるが、彼らは厚かましくも自称の誤った自由を振りかざして信者を侮辱するが、それはもはや自由な意見と報道の自由とは全く関係なく、ジャーナリズムによって同意もしくは正当化された絵や文字や言葉やイラストによるテロである。

しかし、それは報いがあるだろう。まさに誤った悪質な漫画や戯画や風刺画によって宗教創始者、預言者、信仰と信者が罵倒され侮

辱される場合は特にそうである。それがまさしくイスラム教とイスラム教徒とその預言者ムハンマドに関して起こっているのだ。そのため既に起こったように、預言者ムハンマドと、従ってまた信心深いイスラム教徒を侮辱し、罵倒して台無しにする、この形態の戯画家や漫画家や風刺画家は、イスラム主義の狂信的で過激で復讐欲に駆られた殺人者や自爆攻撃者や殺人奇襲隊によって、繰り返し何度も殺されることになるだろう。

この者達は、自分達の間違った考えに従って、残忍な復讐と報復の権利を持っていると思い込んでいる。だから、遅かれ早かれイスラム教とイスラム教徒とムハンマドに敵対的な漫画家や戯画家や風刺画家に対する攻撃が、再び行われても驚くにあたらない。

不思議なのは、これについてまだそれほど多く起こっていないということと、これまで風刺新聞“シャルリー・エブド”の製作者とスイスの風刺画家アンドレアス・ティエル、その他のイスラム教とイスラム教徒の敵対者も、今までのところ人間的に完全に退廃的なイスラム主義者や、その他の原理主義的なイスラム狂信者の復讐マシーンに巻き込まれていないということだ。だが、それが遅かれ早かれ起こることは十分懸念される。

というのは狂信的で過激な狂気に憑かれたイスラム主義者は、あらゆる種類の未熟な漫画家や戯画家や風刺画家、外国人憎悪者や人種憎悪者のイスラム教とイスラム教徒とムハンマドに敵対的な墮落した策謀に対して理解を持たないからである。これらの者はたとえばドイツの“ペギーダ”運動の信奉者のように、イスラム教とイスラム教徒に悪態を吐いてデモ行進

する。反対にイスラム主義者達は、イスラム教とイスラム教徒とムハンマドに、敵対的で不適切な漫画や戯画や風刺画の軽薄さによって、いよいよもって憎悪と血にまみれた復讐と報復へと駆り立てられる。

そして、まさにそれが現在ドイツでも起きているのである。というのもこのイスラム主義者の間に憎悪と復讐と報復を呼び起こす挑発の道を、犯罪者、外国人憎悪者、人種憎悪者、イスラム教およびイスラム教徒憎悪者によって設立された大衆運動団体“ペギーダ”すなわち「西洋のイスラム化に反対する欧州愛国者」も歩んでいるからだ。

これについてインターネットには次のような記事が掲載されている。

ルッツ・バッハマン（1973年1月26日ドレスデン生まれ）はドイツの政治活動家。

2014年10月に誕生した排外主義的な団体「西洋のイスラム化に反対する欧州愛国者」（ペギーダ）の創設者および運営者である。

バッハマンは1973年ドレスデンで肉屋の息子として生まれた。コスヴィックのレオンハルト・フランク一般総合技術学校、ドレスデンのアルトウール・ベッカー青少年スポーツ学校に通った。高校を卒業した後、コックの職業教育を受け、1992年に広告代理店を設立した。

バッハマンは多数の様々な犯行（特に傷害、家宅侵入、窃盗）を犯して刑事罰を受けた。特に1998年に禁固3年8か月の有罪判決を受けた。有罪判決が出た直後に司法の手を逃れて南アフリカに逃亡し、偽名で2年間生活していたが、遂に移民局によって特定されてドイ

ツに送還された。ドイツで2年間収監された後、保護観察付きで仮釈放された。2008年にコカイン40g、その次は54gを所持しているのが発見された（麻薬犯罪）。

それに対する自由刑が執行猶予付きで言い渡され2015年2月に満了した。

この“ペギーダ”によって発生したことは、ドイツでナチが結成されて広がり始めた当時起きたことと、実に似ている。その当時ユダヤ人に向けられていたものは、今日ではイスラム教に、従ってイスラム教徒に向けられている。つまり「ナチスから再びよろしく」とのことである。が今回はイスラム教とイスラム教徒に対する憎悪という形を取っている。しかしネオナチ、その他の過激派の影響により全体が再びユダヤ人にまで拡大する恐れがある。これに対してドイツの政府と警察およびその他の治安機関の責任者は何もせず、“ペギーダ”を芽のうちに摘まず、犯罪的で人種主義的な首謀者を活動禁止にし、社会から分離して無害化することをしないが、これは全く不可解である。

**プター:**世界中で様々な集団が帰依しているイスラム主義者のテロ活動について君が言ったこと、彼らはイスラム教やイスラム教信者や預言者ムハンマドを言葉とイラストで罵倒し誹謗する未熟な漫画家や戯画家や風刺画家に復讐し、そうしてまさしく狂気に憑かされたイスラム主義者が襲いかかって復讐と報復の殺人を犯すというようなことは必ず起こるだろう。それは早ければ今日、明日かも知れないし、近い将来または遠い将来かも知れないが、イスラム教や預言者

ムハンマドや信者を不適切な漫画や戯画や風刺で、また敵対的に形成された演説やデモ行進によって侮辱することをやめなければ繰り返し何度でも起こるだろう。そして一度起きたら、全部のことが長期的にただ一回の出来事にはとどまらず、全てがさらに広がり、さらに多くの苦難をもたらすだろう。

そして君が大衆運動“ペギーダ”に関して言ったことは、私も事態を君と同じ枠組みで見て理解している。ナチスに関して起きたことも、ほぼこれと同じやり方で始まったのであり、当時ドイツに居た人間は犯罪的にもユダヤ人に対して扇動され、ユダヤ人は非人間と宣告されたのだ。そして今“ペギーダ”の大衆運動が阻止されなければ、そこから最終的にはユダヤ人迫害と同じ特徴を持ったものへと発達するかも知れない。もちろんそれは別の枠組みであろうし、全体が国民的なイスラム教憎悪とイスラム教徒憎悪に変節し、それによってもはやコントロールできない災厄が迫るだろう。

**ビリー:**それは私にも明らかだ。再度それについて語ることがあるとすれば、今や既にかなり長く続いているISもしくは“イスラム国家”の大惨事だ。これに関していわゆる国際社会もしくは世界社会は何もしていない。既に4年間続いているシリアの内戦や、他方ではまたナイジェリアの“ボコ・ハラム”、アフガニスタンやパキスタンのタリバンなどでもそうであり、全ての殺人と悲惨、あらゆる破壊、拷問、女子供の強姦を止めようとしなさい。責任ある統治者がクッションの効いたソファに座ってホラを吹きながら、美味しい食事とワインを楽しんでいるだけだ。というのも彼ら

自身は全く安泰に暮らしているからだ。そして彼らが何か決議したとしても、責任を取るために前線に赴くのは彼らでは無く、軍隊が派遣されて死と滅亡を招くのだ。

政府の責任者、まさにいわゆる国際社会の責任者達は大言壮語するだけで、実際のところ国際社会の責任者では無い。なぜなら全ての国家およびその権力者は自分の事のためだけに動き回り、たとえばヘノクのシステムによる“多国籍平和戦闘部隊”<sup>かな</sup>で必要であるように、目的に合ったやり方で他の国々と結び付こうとはしない。

もしそれが存在したら、全地球で全ての民族の間でとうの昔に永続的な平和が訪れただろう。なぜならそのような組織は平和をもたらし、また維持するだろうからだ。

しかし全ての国家の統治者はそれを望まない。なぜなら彼らは戦争を遂行する力をあまり持っておらず、また全てを好き勝手に自分の利益のために決めることが出来なくなっているからだ。

兵器産業もまたそれを望まない。なぜなら兵器産業は武器などを戦争地域や軍隊に供給できなくなるからだ。

そして犯罪的なISもしくは“イスラム国”について言うと、ISによって訓練され再び故郷へ送り返される全ての血に飢えた連中は“スリーパー”、すなわちISに魅せられて過激になった輩<sup>やから</sup>以外の何ものでも無く、彼らが故郷に送り返されるのはただ時を待ち適切な時期に「災いに満ちたテロ」<sup>わざわ</sup>で身に付けた殺人技を發揮して、殺人と破壊を行うためである。しかし祖国で管轄する統治者や官庁および治安機関、情報機関、軍隊はこの危険を知覚しておらず眠っているようだ。そうでなければどうして官

庁などは、帰郷者は“浄化され”、イスラム原理主義や狂信主義や過激主義や狂気から離れて、「今や後悔している」などという愚かで馬鹿げたことを言ったり論じたり出来るだろうか。時には例外的にそういうこともあるかも知れないが、およそ、そのような例外が存在するとしても、これら再び故郷に戻る者達の大多数は間違いなくそのような例外には属さない。だから、まさにISの訓練を受けた連中が再び故郷に入って“スリーパー”として存在できることによって、テロは阻止されず一層助長される。そして彼らは好機を見計らい、命令が下されるか、単にチャンスが見つかったら残忍に襲いかかるのだ。

しかし、また彼らはたいい邪魔されることなく他の不安定な連中を動員して原理主義化し、イデオロギーを浸透させ、狂信的、過激的にするが、これはイスラム主義の憎悪の説教者もやっていることだ。ある日、これらのイスラム主義の便乗者によって、また“スリーパー”自身によっても、ヨーロッパで悪魔が動き出し、最初のテロ行為が起きて人命が失われる。

一度そうなると、それは次の似たような出来事の始まりとなり、それが度重なるのだ。私がISを判断するところでは、ISの“スリーパー”あるいは憎悪の説教者やISプロパガンダによって狂信的、過激的にされたそれぞれのテロリストが様々な国で襲いかかるのもそう遠いことではない。この点でそのようなIS“スリーパー”またはその他の残忍なテロリストの犠牲者としてヨーロッパが全世界に先行するだろうと思う。彼らはその原理主義とイスラム主義の狂気を存分に發揮して殺人と撲殺、破壊と苦悩を広めようとしている。し

かし見たところ全世界は事実上もはやそのような“スリーパー”とその他の狂信的で過激的なテロリストの前に安全ではない。その事は IS についてだけでなく、アルカイダや他のテロリストや無政府主義者や犯罪集団についてもだ。

**プター:** 実際そうなるだろう。

**ビリー:** 君はこれについて予視を何回かしたのかね？

**プター:** 確かに何回かした。だが、根本的に原因から結果として何が

起きるかは明せきな知性が告げるのだ。そのうえ若干の確率計算をしたが、君が語ったのと同じ結果が出た。

**ビリー:** では私は正しいということだ。

**プター:** 疑いなく。

**ビリー:** 要するに我々は、どんな害悪や大惨事が起きるのか到来を待ち手をこまねいて見ていることしか出来ないのだ。というのも統治者や官庁や情報機関は必要となる

処置をしないだろうから、それは彼らが未熟で現実とその真実を認識できないからだ。彼らは盲目で未熟なので、自分達は全てをコントロール下に置いており彼ら、もしくは彼らの国は被害を受けないと思いついでいる。だがこの馬鹿げた姿勢が自分で自分の首を絞めることになるのだ。

**プター:** そのようになることは疑いない。

### Ein offenes Wort

Ein offenes Wort sprechen bedeutet, anderen Menschen die Wahrheit sagen.

SSSC, 13. März 2012 23.50 h, Billy

### 素直な言葉

率直な言葉を話すことは重要である、他の人間に真実を話す事になるから。

SSSC, 2012/3/13 23:50 , Billy



無断複製・利用を禁止します。著作権は一般社団法人 FIGU-Landesgruppe JAPAN に帰属します。

発行・販売元：社) フィグ・ランデスグルッペ・ヤーバン  
〒193-0823 東京都八王子市横川町 521 番 4 号  
TEL 042-686-1379 FAX 042-686-1378  
E-Mail info@jp.figu.org  
ゆうちょ口座記号番号：00150-9-275235  
口座名義：社) フィグ・L・ヤーバン